

【教育活動の名称】 国際理解の環境を整える学校図書館経営

【学校名】 草津市立玉川中学校

## 1 本校の概要

本校は、今年度創立33年目を迎え、1年生4クラス、2年生5クラス、3年生4クラス、特別支援学級3クラスで、全校生徒420名の学校である。スクールESDの取組、つながり学習では人権や環境、地域、防災、宇宙の分野に分かれ、校区内の企業や大学等地元の方と連携しながら、体験を交えた学習活動を行っている。

様々な外国籍生徒の在籍に伴い、日々共に過ごす仲間として、異なる文化や習慣を互いに理解し尊重することが必要であり、共生する資質・能力を育成するための国際理解教育の重要性が増している。

## 2 取り組んだ内容

### (1) 学校図書館でコーナー設置

本校生徒と外国籍生徒がともに理解し合い、さらに快適に過ごすことができるよう、また国際理解教育の一助として多言語に親しめる図書環境を整えた。4か月間学校司書による常設コーナーとして、様々な言語の図書を手に取りやすい位置に置き、学校図書館を訪れる生徒に読んでもらう機会を作ることができた。絵本や辞典の他、言語とともに文化を紹介する本等40冊以上をコーナーに設置し、生徒が多文化に触れる機会を得ることができた。中国語、フィリピン語、ロシア語、英語、ベトナム語と外国籍生徒の母語以外の言語も、小学校で学習した「スイミー」の本を選書するなど工夫し、日本人の生徒にも親しみを持ちやすい本にすることで、興味をもつ生徒が多くいた。また、フィリピン語と英語の併記など、翻訳しやすい本を多く設置した。昼休みの自由に閲覧できる開館時間だけでなく授業で学校図書館を訪れた際にも、手に取りページをめくる様子が見られた。



言葉が通じなくても理解が簡単な絵本を手に取り、保育実習で園児向けに読む練習をする生

徒や、職場体験でこども園を訪問する際に活用しようとする生徒もいた。また、生徒同士がお互いに読み聞かせあったり、クイズを出し合う姿も見ることができた。

### (2) 新入生説明会で紹介

3学期には、来年度新1年生として入学する児童を招き、入学説明会を行う。その際に1年生が校舎内を案内し、学校図書館も紹介する。少しでも不安の軽減につながるよう、来年度入学する外国籍の児童に母語で書かれた図書を配架している様子を紹介し、親しみをもってもらうことができた。

### (3) 日本語指導教室での活用

本校では、週2日日本語指導教員が、外国籍生徒の指導に当たっている。指導の中で、母語の本を手に取り日本語指導教員とともに読み合う姿も見られた。日本語と母語の辞典を借り、自宅へ持ち帰り学習する生徒もあり、日本語指導に有効な役割を果たしている。



## 3 活動の成果

学校図書館での常設コーナーでの多言語で書かれた図書の展示は、多くの生徒の興味を刺激し、多文化に触れるきっかけを作った。教員によるコーナー紹介により、外国籍の生徒にも学校図書館を訪れ、関心をもって読んでもらうことができた。日本語理解に困難さを抱える生徒に、母語の書籍に触れることで、少しでも安らぎを感じてもらえることを願う。日頃英語以外の言語に触れる機会のない生徒にも、図書を通して多言語に親しむ機会を提供できた。図書に触れ興味をもつことから、国際理解を深めようとする生徒が増えることを期待したい。

